



ハマツメクサを赤丸、ツメクサを白抜きの丸で表した分布図。左が1980年以前、右が同年以降の分布

都市化で拡大 ハマツメクサ分布地

藤井俊夫 主任研究員



春の七草のハコベに似た花をつけ、葉が鳥の爪のように鋭いため「爪草」と呼ばれる雑草があります。近畿地方に普通に見られるツメクサの仲間には海岸の岩場に生える「ハマツメクサ」が、人家の庭や道端に普通に生えます。

1980年以前の分布図では、海岸周辺でしか見られなかつたのに対しツメクサは内陸に普通に見られます。80年以後の図では、ハマツメクサがJ.R.福知山線沿いに普通に見られることが分かりました。

10年近く前、駅のプラットホームで電車を待つていて、海岸に生えているはずのハマツメクサが目に止まりました。海岸から30キロも離れた内陸の駅構内で見られるのを疑問に思い、その後、注意して観察するとハマツ

メクサはプラットホームの点字タイルの隙間に集中して見られることが分かりました。

R福知山線沿いの半数以上の駅でハマツメクサが見つかりました。一方、内陸に普通に分布するはずのツメクサはほとんど見つかりませんでした。両種

の間には生育環境、特に根

を張る土壤基質の違いなどがあるので、どちらに見られるかの形態と基質を調べてみました。

するとツメクサは根が細く数本の枝に分かれる傾向があるのに対して、ハマツメクサは太い直根が1本真っすぐ下に伸びています。

根を張る基質についても明らかな違いが認められ、ツメクサは湿った土がある未塗装の道路やグラウンド、トやアスファルト、石畳、ブロックの隙間に見られました。

この2種には土壤の基質や水分条件に対しても差が認められ、ハマツメクサは水分条件の悪い海岸といつた過酷な環境に適応し、ツメクサは水分条件が良好な土

壤に適応しているものと考えた。

近年、外来生物の侵入や分布拡大が問題視されていますが、在来の生物でも環境の変化に敏感に反応して勢力を縮小拡大する

**ひとはく
研究員
だより**

えられます。

次に近畿地方における2種の分布を過去の標本および現地調査で得られた結果を基に作成しました。1980年以前の分布図では海

岸性のハマツメクサは海岸部を除けば、旧街道や伊吹山周辺でしか見られなかつたのに対しツメクサは内陸に普通に見られます。80年以後の図では、ハマツメクサがJ.R.福知山線沿いや和歌山から高野山に至るバイパス沿いに連続して分布していることが分かりました。

80年以前の分布図では海岸部を除けば、旧街道や伊吹